

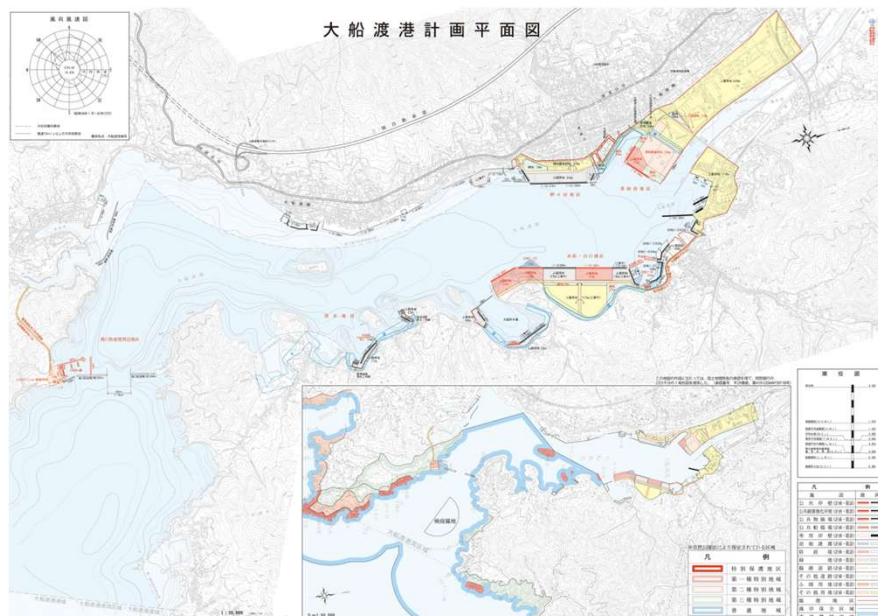
1. 申請港概要

- 港湾管理者 岩手県
- 担当部署 岩手県県土整備部
港湾空港課
- 地元自治体 大船渡市
- 大船渡港は岩手県沿岸南部に位置する天然の良港であり、セメントや木材、石油等を扱う港として発展してきた。
現在は大規模なセメント工場を有する東北有数の製造拠点であり、国際フィーダーコンテナ定期航路による物流に加え、脱炭素化及び循環型社会の実現に向けた取組の一環である内航コンテナ静脈輸送にも対応している。
さらに、背後の北上山地における国際ニアコライダー計画も見据え、物流や観光の拠点として今後の発展が期待されている。



国土地理院地図より

■位置図（港湾計画図）



2. 申請港のサーキュラーエコノミーへの取組や貢献

○：実績
☆：計画

- セメント製造を核として、廃プラスチックの代替燃料利用、石炭灰や鑄造工程由来の廃砂の原料利用などの循環資源貨物取扱量が近年約3.0万トンに推移している。また、令和2年に静脈物流に係る内航コンテナ航路が就航し、首都圏の廃プラスチックなどの再生資源の輸送を効率化。現在も継続して運航している。
（1 静脈物流にかかる港湾取扱貨物量がある、又は見込まれること）
- 港湾周辺に立地するセメント工場において、東日本大震災や大規模林野火災において、港湾を活用した災害廃棄物の受入・処理に関与してきた実績を有する。また、平成29年に、セメント工場・岩手県・大船渡市の三者で「循環型地域社会の形成に関する協定」を締結している。**（9 災害廃棄物の広域処理体制が整備されていること、又は計画されていること）**
- ☆ 上記協定締結のほか、サーキュラーエコノミーについて関連企業等と情報交換しながら取組の共有を図っている。また、国の地方創生伴走支援制度を活用し、地方創生支援官とともにリサイクル関連等の企業訪問を実施するとともに、企業立地動向アンケート調査を行うなど、港湾へのリサイクル関連施設の誘致・集積に向けて積極的に取り組んでいる。**（10 サーキュラーエコノミーへの貢献）**

3. その他



写真：大船渡港後背地に立地するリサイクル関連企業